

平成18年度
第1回高等学校入学者選抜審議会資料
平成18年7月13日(木) 14:30~16:30
県庁9階 第一会議室

目 次

1	高等学校入学者選抜審議会条例 P	1
2	平成10年度～平成19年度の高等学校入学者選抜日程の推移 P	2
3	平成18年度～平成20年度の高等学校入学者選抜日程 P	3
4	平成18年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について P	4
5	平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜について P	1 2
6	県立高等学校の通学区域(学区制)の在り方について 答申素案(案)	別冊
7	平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜方針(写し)	(別添)

高等学校入学者選抜審議会条例

(昭和28年3月28日条例第40号)

最終改正 昭和47年10月条例第27号

第一条 教育委員会の諮問に応じ、高等学校の通学区域の検討、入学者の選抜の方法及びその実施並びに学力検査問題の作成について調査審議するため、高等学校入学者選抜審議会(以下「審議会」という。)を置く。

第二条 審議会は、30人以内の委員で組織する。

2 審議会に、専門の事項を調査研究させるため、専門委員を置く。

第三条 委員及び専門委員は、学校の教職員、教育研修所の職員、教育庁の職員及び学識経験者のうちから教育委員会が任命又は委嘱する。

第四条 委員の任期は二年とする。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 教育委員会が必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず、任期中においても当該委員を解職することができる。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査研究が終了したときは、退任するものとする。

第五条 審議会に、委員長及び副委員長各一人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長に事故あるとき、その職務を代行する。

第六条 審議会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

第七条 この条例に定めるものを除く外、審議会の議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議にはかつて定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和47年10月11日条例第27号抄)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

平成10年度～平成19年度の高等学校入学者選抜日程の推移

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
推薦入学出願者受付	1. 16～23	1. 14～22	1. 14～21	1. 15～23	1. 15～23	1. 14～22	1. 14～22	1. 13～21	1. 13～23	
推薦入学出願者の面接等	1. 30(金)	1. 29(金)	1. 28(金)	1. 31(水)	1. 31(木)	1. 30(木)	1. 30(金)	1. 31(月)	1. 31(火)	1. 31(水)
(私立高等学校入試・他地区)	1. 28～29	1. 27～28	1. 26～31	1. 25～26	1. 24～29	1. 28～29	1. 25～29	1. 26～27	1. 26～27	
(私立高等学校入試・A日程)	2. 2～3	2. 1～2	2. 1(火)	2. 2(金)	2. 1(金)	2. 3(月)	2. 2(月)	2. 1(火)	2. 1(水)	
(私立高等学校入試・B日程)	2. 4～5	2. 3～4	2. 3(木)	2. 5(月)	2. 4(月)	2. 5(水)	2. 4(水)	2. 3(木)	2. 3(金)	
推薦入学結果通知	2. 6(金)	2. 5(金)	2. 4(金)	2. 7(水)	2. 7(木)	2. 6(木)	2. 6(金)	2. 7(月)	2. 7(火)	2. 7(水)
出願受付	2. 13～19	2. 12～18	2. 14～21	2. 15～23	2. 15～25	2. 14～24	2. 16～24	2. 15～24	2. 14～23	
学力検査	3. 9(月)	3. 8(月)	3. 8(水)	3. 8(木)	3. 7(木)	3. 6(木)	3. 5(金)	3. 9(水)	3. 8(水)	3. 7(水)
合格者の発表	3. 13(金)	3. 12(金)	3. 14(火)	3. 14(水)	3. 13(水)	3. 12(水)	3. 11(木)	3. 15(火)	3. 14(火)	3. 13(火)
第二次募集出願受付	3. 16～20	3. 15～18	3. 15～18	3. 15～19	3. 14～18	3. 13～18	3. 12～18	3. 16～18	3. 15～20	
第二次試験	3. 20～25	3. 18～23	3. 21～23	3. 21～22	3. 19～20	3. 19～20	3. 19～22	3. 22～23	3. 22～23	
第二次募集合格発表	3. 20～25	3. 18～23	3. 21～23	3. 21～22	3. 19～20	3. 19～20	3. 19～22	3. 22～23	3. 22～23	

平成20年カレンダー

1 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

3 月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

平成20年度入学者選抜 (案)

平成19年度入学者選抜

平成18年度入学者選抜

1/1	曜		1/1	曜		1/1	曜	
2	水		2	火		2	月	
3	木		3	水		3	火	
4	金		4	木		4	水	
5	土		5	金		5	木	
6	日		6	土		6	金	
7	月		7	日		7	土	
8	火		8	月	(成人の日)	8	日	
9	水		9	火		9	月	(成人の日)
10	木		10	水		10	火	
11	金		11	木		11	水	
12	土		12	金		12	木	
13	日		13	土		13	金	▽
14	月	(成人の日)	14	日		14	土	▽
15	火		15	月		15	日	▽
16	水		16	火		16	月	
17	木		17	水		17	火	
18	金		18	木		18	水	
19	土		19	金		19	木	予備調査報告書, 同集計表, 推薦受付
20	日		20	土		20	金	
21	月		21	日		21	土	
22	火		22	月		22	日	
23	水		23	火		23	月	△
24	木		24	水		24	火	△
25	金		25	木		25	水	△
26	土		26	金		26	木	
27	日		27	土		27	金	
28	月		28	日		28	土	
29	火		29	月		29	日	
30	水		30	火		30	月	
31	木	推薦入試・連携型入試	31	水	推薦入試・連携型入試	31	火	推薦入試・連携型入試
2/1	金		2/1	木		2/1	水	私立高校A日程入試
2	土		2	金		2	木	
3	日		3	土		3	金	私立高校B日程入試
4	月		4	日		4	土	
5	火		5	月		5	日	
6	水		6	火		6	月	
7	木	推薦入試, 連携型入試合格発表	7	水	推薦入試, 連携型入試合格発表	7	火	推薦入試, 連携型入試合格発表
8	金		8	木		8	水	
9	土		9	金		9	木	
10	日		10	土		10	金	
11	月	(建国記念日)	11	日	(建国記念日)	11	土	(建国記念日)
12	火		12	月	(振り替え休日)	12	日	
13	水		13	火		13	月	一般入試出願 ▼
14	木		14	水		14	火	
15	金		15	木		15	水	
16	土		16	金		16	木	
17	日		17	土		17	金	
18	月		18	日		18	土	
19	火		19	月		19	日	
20	水		20	火		20	月	
21	木		21	水		21	火	
22	金		22	木		22	水	
23	土		23	金		23	木	出願者数報告 出願〆切(11:00) ▲
24	日		24	土		24	金	特例出願 ▼
25	月		25	日		25	土	
26	火		26	月		26	日	
27	水		27	火		27	月	
28	木		28	水		28	火	
29	金		3/1	木		3/1	水	
3/1	土		2	金		2	木	
2	日		3	土		3	金	特例出願出願〆切(正午) ▲
3	月		4	日		4	土	
4	火		5	月		5	日	
5	水		6	火		6	月	
6	木	一般入試学力検査	7	水	一般入試学力検査	7	火	一般入試学力検査
7	金		8	木		8	水	
8	土		9	金		9	木	
9	日		10	土		10	金	
10	月		11	日		11	土	
11	火		12	月		12	日	
12	水	一般入試合格発表	13	火	一般入試合格発表	13	月	一般入試合格発表
13	木		14	水		14	火	▽ 2次募集出願受付
14	金		15	木		15	水	
15	土		16	金		16	木	
16	日		17	土		17	金	
17	月		18	日		18	土	
18	火		19	月		19	日	
19	水		20	火		20	月	▲ 11:00 成績報告, 答案送付〆切
20	木	(春分の日)	21	水	(春分の日)	21	日	(春分の日)
21	金		22	木		22	水	第二次学力検査等 ▼
22	土		23	金		23	木	▲
23	日		24	土		24	金	
24	月		25	日		25	土	
25	火		26	月		26	日	
26	水		27	火		27	月	
27	木		28	水		28	火	
28	金		29	木		29	水	
29	土		30	金		30	木	
30	日		31	土		31	金	
31	月							

平成18年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について

1 総括

平成18年4月19日

	全日制課程		定時制課程	
	平成18年度	平成17年度	平成18年度	平成17年度
中学校卒業予定者数(平成17年5月1日現在)	23,602	24,434	—	—
募集定員 (a)	16,760	17,280	960	960

		全日制課程		定時制課程	
		平成18年度	平成17年度	平成18年度	平成17年度
推薦入試	推薦枠	5,634	5,790	286	286
	出願者数	7,056	7,814	50	82
	倍率	1.25	1.35	0.17	0.29
	合格者数 (b)	4,901	5,220	44(2)	70(11)

(注) ()内数字は、社会人推薦合格者数で内数

		全日制課程	
		平成18年度	平成17年度
連携型入試	募集人数	120	120
	出願者数	150	179
	倍率	1.25	1.49
	合格者数 (c)	117	120

			全日制課程		定時制課程	
			平成18年度	平成17年度	平成18年度	平成17年度
一般入試	出願当 締日 切	募集人数	11,742	11,940	916	890
		出願者数	14,598	15,126	515	506
		倍率	1.24	1.27	0.56	0.57
	特例措置出願		0	3	0	2
	学力 検査 当日	欠席者数	284	284	14	16
		受検者数	14,314	14,845	501	492
		倍率	1.22	1.24	0.55	0.55
		合格者数 (d)	10,935	11,259	403	377

		全日制課程		定時制課程	
		平成18年度	平成17年度	平成18年度	平成17年度
第二次募集	募集人数	824	729	513	513
	出願者数	312	345	160	184
	受検者数	305	335	153	182
	合格者数 (e)	248	262	108	119

		全日制課程		定時制課程	
		平成18年度	平成17年度	平成18年度	平成17年度
全合格者数 (b+c+d+e)		16,201	16,861	555	566
充足率 (%) ((b+c+d+e)/a *100)		96.7	97.6	57.8	59.0

※ 一般入試合格者数が定員に満たなかった学校・学科

18年度	全日制課程	35校51学科	定時制課程	12校17学科
17年度	全日制課程	39校57学科	定時制課程	12校17学科

(注) 分校も1校とし、学科数は募集単位の数

2 学科別出願者数・合格者数等

(1) 全日制課程

	学 科	募集定員	推薦入試			一般入試			運携型入試 合格者数	第二次募集 合格者数	全合格者 数	充足率 (%)
			出願者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率				
1	普通	10,760	4,702	3,007	64.0	9,625	7,279	75.6	96	116	10,498	97.6
2	農業	840	216	199	92.1	680	583	85.7		17	799	95.1
3	工業	1,720	685	556	81.2	1,332	1,036	77.8		34	1,626	94.5
4	商業	1,720	633	533	84.2	1,323	1,009	76.3	21	59	1,622	94.3
5	水産	200	58	54	93.1	161	121	75.2		11	186	93.0
6	体育	160	128	96	75.0	114	67	58.8		0	163	101.9
7	英語	80	65	32	49.2	78	49	62.8		0	81	101.3
8	家庭	160	78	56	71.8	124	81	65.3		2	139	86.9
9	看護	40	22	16	72.7	25	24	96.0		0	40	100.0
10	理数	200	133	81	60.9	163	119	73.0		0	200	100.0
11	美術	40	34	24	70.6	23	16	69.6		0	40	100.0
12	総合	840	302	247	81.8	666	551	82.7		9	807	96.1
	計	16,760	7,056	4,901	69.5	14,314	10,935	76.4	117	248	16,201	96.7

(2) 定時制課程

	学 科	募集定員	推薦入試			一般入試			第二次募集 合格者数	全合格者 数	充足率 (%)
			出願者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率			
1	普通	680	47	41	87.2	397	320	80.6	76	437	64.3
2	工業	280	3	3	100.0	104	83	79.8	32	118	42.1
	計	960	50	44	88.0	501	403	80.4	108	555	57.8

3 学区別出願者数・合格者数等(全日制課程)

	学 区	募集定員	推薦入試			一般入試			運携型入試 合格者数	第 二 次 募 集		
			出願者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率		出願者数	受検者数	合格者数
1	刈田・柴田	1,480	524	455	86.8	984	908	92.3		28	27	18
2	伊 具	400	114	99	86.8	303	292	96.4		2	2	2
	南部地区	1,880	638	554	86.8	1,287	1,200	93.2		30	29	20
3	亶理・名取	1,000	412	319	77.4	932	681	73.1		0	0	0
4	仙 台 南	2,560	1,429	820	57.4	2,502	1,739	69.5		2	2	2
	中部南地区	3,560	1,841	1,139	61.9	3,434	2,420	70.5		2	2	2
5	仙 台 北	3,200	1,696	1,008	59.4	3,364	2,194	65.2		0	0	0
6	塩 釜	1,200	639	386	60.4	1,233	818	66.3		0	0	0
7	黒 川	560	206	164	79.6	441	344	78.0		22	21	19
	中部北地区	4,960	2,541	1,558	61.3	5,038	3,356	66.6		22	21	19
8	大 崎	1,360	469	370	78.9	1,057	918	86.8		42	39	32
9	遠 田	560	188	138	73.4	451	345	76.5		25	24	20
10	登 米	800	265	210	79.2	569	529	93.0		30	30	29
11	栗 原	760	190	187	98.4	499	429	86.0		37	37	27
	北部地区	3,480	1,112	905	81.4	2,576	2,221	86.2		134	130	108
12	石 巻	1,960	693	552	79.7	1,368	1,225	89.5		103	102	82
13	飯 野 川	80	12	11	91.7	27	19	70.4		10	10	6
14	本 吉	840	219	182	83.1	584	494	84.6	117	11	11	11
	東部地区	2,880	924	745	80.6	1,979	1,738	87.8	117	124	123	99
	総 計	16,760	7,056	4,901	69.5	14,314	10,935	76.4	117	312	305	248
	前 年 度	17,280	7,814	5,220	66.8	14,845	11,259	75.8	120	345	335	262

4 学力検査の結果(5教科受検者について)

教科別得点・総点の平均及び最高等 満点は各教科とも100点

	項目/教科等	満点は各教科とも100点							(参考) 総 点
		国 語	社 会	数学A	数学B	理 科	英語A	英語B	
全日制	平均	53.0	48.5	27.1	39.1	48.4	36.3	54.3	(224.9)
	最高	91	99	88	93	96	91	96	449
	最低	0	0	0	0	0	0	6	2
	前年度平均	52.7	55.1	31.5	51.6	49.2	33.3	50.8	(238.9)
定時制	平均	34.9	23.5	11.4	9.2	24.2	18.2		(112.1)
	最高	76	78	52	26	77	71		298
	最低	0	0	0	0	0	0		0
	前年度平均	34.1	30.2	14.4		24.7	18.9		(122.3)

5 学校選択問題の選択状況

教 科	選択問題	全日制 受検者数	定時制 受検者数	計	AB人数 合計	学校選択		計	AB選択 校数合計
						全日制 選択校数	定時制 選択校数		
数 学	A	8,598	481	9,079	14,802	55	12	67	95
	B	5,708	15	5,723		27	1	28	
英 語	A	8,924	496	9,420	14,802	58	13	71	95
	B	5,382	0	5,382		24	0	24	

6 選択一覧(学科ごと)

(1) 全日制課程

学校名	学科・コース	募集 定員	選択類型			
			数英 AA	数英 AB	数英 BA	数英 BB
1 白石	普通科	160				○
2 白石女	普通科	160	○			
	看護科	40	○			
3 蔵王	普通科	120	○			
4 白石工	機械科・生産技術コース	40	○			
	機械科・制御技術コース	40	○			
	電気科	40	○			
	工業化学科	40	○			
	建築科	40	○			
	設備工業科	40	○			
5 村田	総合学科	120	○			
6 柴田農林 川崎	食農科学科・動物科学科	80	○			
	森林環境科・園芸工学科	80	○			
	普通科	80	○			
7 大河原商	流通マネジメント科	80				○
	OA会計科	40				○
	情報システム科	80				○
8 柴田	普通科	120	○			
	体育科	80	○			
9 角田	普通科	240	○			
10 伊具	総合学科	160	○			
11 名取	普通科	240	○			
	家政科	40	○			
12 名取北	普通科	280			○	
13 亘理	普通科・普通コース	40	○			
	普通科・園芸コース	40	○			
	食品化学科	40	○			
	商業科	40	○			
	家政科	40	○			
14 宮城農 宮農 秋保	農業科・園芸科	120	○			
	農業機械科	40	○			
	食品化学科	40	○			
	生活科	40	○			
	普通科	40	○			
15 仙台一	普通科	320				○
16 宮二女	普通科	280				○
17 宮三女	普通科	280				○
18 仙台南	普通科	160				○
	理数科	40				○
19 仙台南	普通科	320				○
20 仙台西	普通科	280	○			
21 仙台東	普通科	240				○
	英語科	40				○
22 宮城工	機械科	80	○			
	電子機械科	40	○			
	電気科	80	○			
	情報技術科	40	○			
	化学工業科	40	○			
	インテリア科	40	○			
23 仙台工※	建築科	40	○			
	土木科	40	○			
	機械科	80	○			
	電気科	80	○			
24 仙台二	普通科	320				○
25 仙台三	普通科	240				○
	理数科	80				○
26 宮一女	普通科	240				○
	理数科	80				○
27 宮城広瀬	普通科	280	○			
28 泉	普通科	240		○		
	英語科	40		○		
29 泉松陵	普通科	280	○			
30 泉館山	普通科	280				○

学校名	学科・コース	募集 定員	選択類型			
			数英 AA	数英 AB	数英 BA	数英 BB
31 宮城野	普通科	160				○
	美術科	40				○
	総合学科	80				○
32 仙台※	普通科	184	○			
33 仙台商※	国際経済科	40	○			
	情報管理科	40	○			
	商業科	200	○			
34 仙台女商※	商業科	240	○			
35 塩釜	普通科	160	○			
	商業科	80	○			
36 塩釜女	普通科	200	○			
37 多賀城	普通科	280	○			
38 松島	普通科	200	○			
39 利府	普通科	200	○			
	スポーツ科学科	80	○			
40 黒川 大郷	普通科	80	○			
	電子機械科	80	○			
	農業経営科	40	○			
	土木科	40	○			
	普通科	40	○			
41 富谷	普通科・人文コース	120				○
	普通科・国際コース	80				○
	普通科・理数コース	80				○
42 古川	普通科	240				○
43 古川黎明	普通科	240				○
44 岩出山	普通科	160	○			
45 中新田	普通科	80	○			
	商業科	80	○			
46 松山	普通科	40	○			
	家政科	40	○			
47 加美農	農業科	40	○			
	農業機械科	40	○			
	生活技術科	40	○			
48 古川工	機械科	80	○			
	電気電子科	40	○			
	化学技術科	40	○			
	土木情報科	40	○			
	建築科	40	○			
49 鹿島台商	商業科	120	○			
50 涌谷	普通科	160	○			
51 田尻	普通科	80	○			
	商業科	40	○			
52 小牛田農林	農業技術科・農業科学コース	40	○			
	農業技術科・農業土木コース	40	○			
	総合学科	120	○			
53 南郷	普通科	40	○			
	産業技術科	40	○			
54 佐沼	普通科	240				○
55 登米	普通科	120				○
	商業科	80				○
56 上沼	普通科	80	○			
	農業技術科	40	○			
57 米山	普通科	40	○			
	園芸ビジネス科	40	○			
58 米谷工	機械システム科・電気システム科・情報 技術科	120	○			
	自動車科	40	○			
59 築館	普通科	240			○	
60 岩ヶ崎	普通科・文系教養コース	80				○
	普通科・理系教養コース	40				○
61 迫桜	総合学科	200	○			
62 鷲沢工	機械科	40	○			
	電子科	40	○			

学校名	学科・コース	募集 定員	選択類型			
			数英 AA	数英 AB	数英 BA	数英 BB
63 一 迫 商	流通経済科	40	○			
	会計科	40	○			
	情報処理科	40	○			
64 石 巻	普通科	240				○
65 石巻好文館	普通科	200				○
66 石 巻 西	普通科	200				○
67 女 川	普通科	80	○			
68 河 南	普通科	200	○			
	農業科	40	○			
69 宮城水産	海洋総合科	120	○			
	情報科学科	40	○			
70 石 巻 工	機械制御科	80	○			
	電気情報科	40	○			
	化学技術科	40	○			
	土木システム科	40	○			
	建築科	40	○			
71 石 巻 商	総合ビジネス科	200	○			
72 石巻市立女※	普通科・国際教養コース	40	○			
	普通科・人文科学コース	80	○			
	普通科・生活教養コース	80	○			
73 石巻市女商※	商業科	200	○			
74 飯野川	普通科	40	○			
	生活福祉科	40	○			
75 気 仙 沼	普通科	280				○
76 気仙沼西	普通科	120			○	
77 志 津 川	普通科	120	○			
	情報ビジネス科	40	○			
78 本 吉 響	総合学科	160	○			
	情報海洋科	40			○	
	産業経済科	40			○	
79 気仙沼向洋	機械技術科	40			○	
	計	16,760	113	2	6	35
全 日 制 合 計				156		

(2) 定時制課程

学校名	学科・コース	募集 定員	選択類型			
			数英 AA	数英 AB	数英 BA	数英 BB
1 白 石 七ヶ宿	普通科/夜	40	○			
	普通科/昼	40	○			
2 大河原商	普通科/夜	40	○			
	電子機械科/夜	40			○	
3 宮城二工	電気科/夜	40			○	
	普通科/夜	40	○			
4 名 取	普通科/夜	40	○			
	普通科/昼	120	○			
5 貞 山	普通科/夜	40	○			
	普通科/夜	40	○			
6 古川工業	機械科/夜	40	○			
	電気科/夜	40	○			
7 佐 沼	普通科/夜	40	○			
8 東 松 島	普通科/I部(午前)	40	○			
	普通科/II部(午後)	40	○			
	普通科/III部(夜間)	40	○			
9 飯野川十三浜	普通科/昼	40	○			
10 気 仙 沼	普通科/夜	40	○			
11 仙台圏南萩陵※	普通科/夜	120	○			
	建築科/夜	40	○			
12 仙台二工※	土木科/夜	40	○			
	機械科/夜	40	○			
	計	960	18	0	2	0
定 時 制 合 計				20		

7 3%枠の適用に関する入学者選抜の結果

(単位：人)

(1) 総括

() は枠人数

		H18年度	H17入試	H18-H17	H16入試	H15入試
3%枠人数合計		(299)	(309)	(-10)	(321)	(333)
予備調査志願者数		165	148	+17	216	170
推薦入試	3%設定枠	(215)	(215)		(211)	(209)
	出願者数	122	123	-1	156	132
	合格者数	74	74		91	80
一般入試	3%設定枠	(225)	(235)	(-10)	(230)	(253)
	出願者数	54	39	+15	46	52
	合格者数	36	25	+11	37	44
推薦と一般の出願者数合計		176	162	+14	202	184
推薦と一般の合格者数合計		110	99	+11	128	124

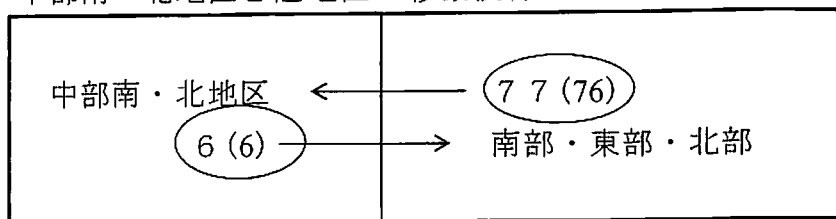
(2) 3%枠が充足された学校

学校名	推薦入試 合格者数	一般入試 合格者数	推薦+一般 合格者数	学校名	推薦入試 合格者数	一般入試 合格者数	推薦+一般 合格者数
仙台南高校	7	2	9	仙台向山高校	3	1	4
仙台第二高校	6	3	9	宮城野高校	2	2	4
第二女子高校	7	1	8	柴田高校	0	3	3
第三女子高校	7	1	8	松山高校	0	1	1
第一女子高校	6	1	7	南郷高校	0	1	1

(3) 3%枠合格者に係る地区間の移動状況

	(3%枠)	合格先高校所在地区					計 (流出)
		南 部 (23)	中 部 南 (71)	中 部 北 (107)	北 部 (51)	東 部 (47)	
居 住 地 区	南部から		32	4	0	0	36
	中部南から	3		14	0	0	17
	中部北から	0	4		2	1	7
	北部から	0	6	17		6	29
	東部から	0	8	10	3		21
計(流入)		3	50	45	5	7	110
(流入)-(流出)		-33	33	38	-24	-14	-

(4) 中部南・北地区と他地区の移動関係

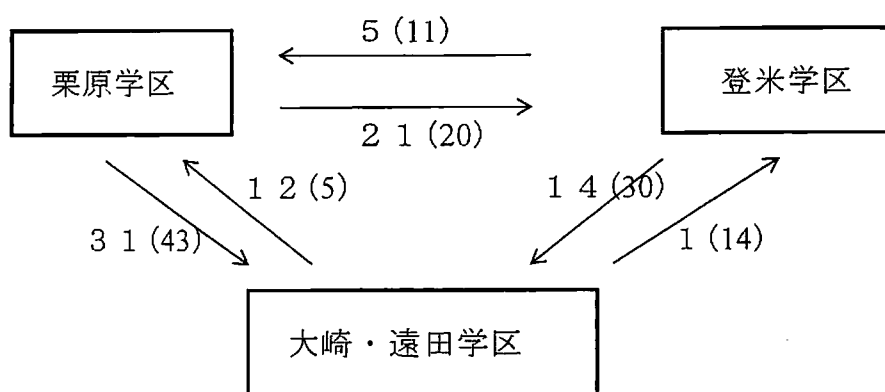


()内は H17 の数値

8 北部地区3学区と東部地区2学区における学区間の移動状況(合格者数)

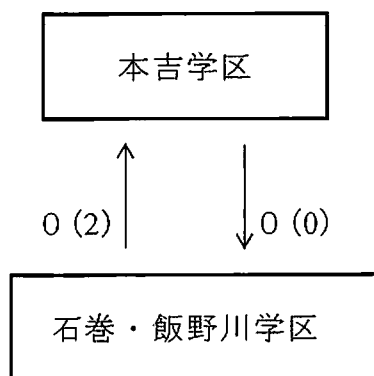
(単位：人)

(1) 北部地区



()内は H17 の数値

(2) 東部地区



()内は H17 の数値

9 調 整 措 置

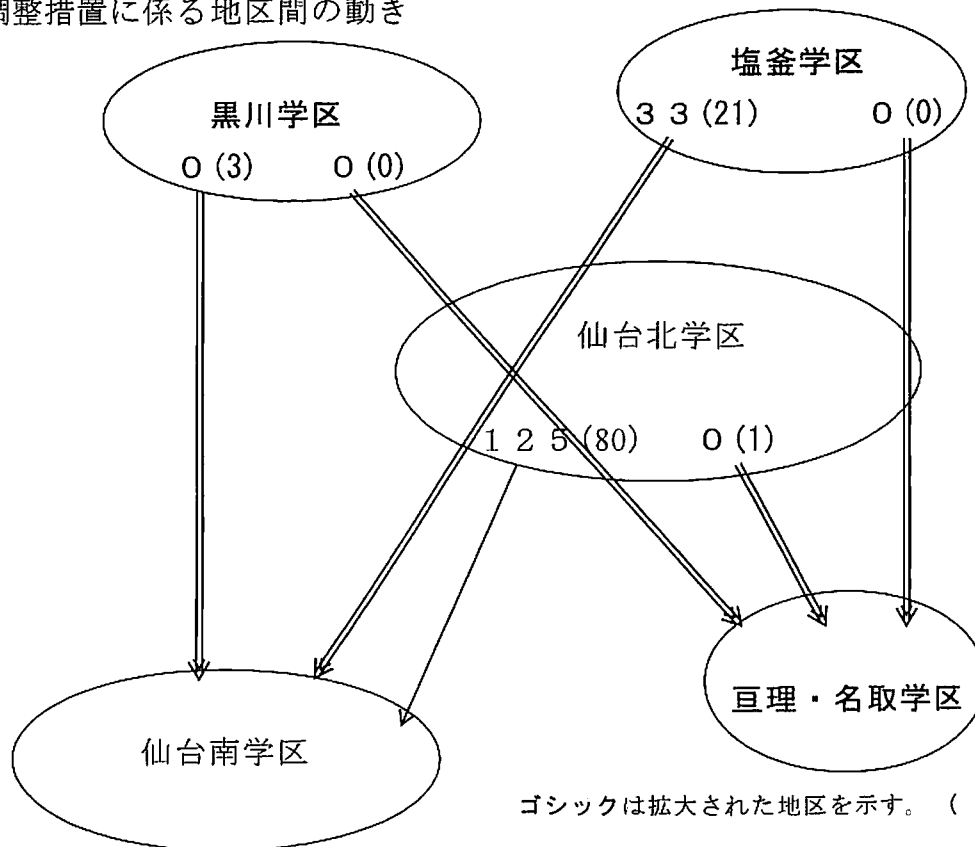
(単位：人)

(1) 調整措置総括

学校・コース名	募集定員	調整枠	推薦出願	推薦合格	一般入試 残り定員	一般出願	一般合格
★名取	240	24	0	0	24	0	0
★名取北	280	28	0	0	28	1	0
★亘理・普通	40	4	0	0	4	0	0
★亘理・園芸	40	4	0	0	4	0	0
宮農秋保校	40	4	1	1	3	2	2
宮二女	280	70	57	19	51	78	45
宮三女	280	70	50	22	48	59	43
仙南向山	160	16	7	6	10	2	2
仙台南	320	32	10	6	26	12	10
仙台西	280	28	0	0	28	1	1
仙台東	240	24	1	1	23	0	0
宮城野	160	40	7	3	37	10	6
合計	2360	344	133	58	286	165	109

★はH13入試より調整の対象となった学校・コースを示す。

(2) 調整措置に係る地区間の動き



平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜について

1 募集定員

		平成19年度	平成18年度	増 減
全日制課程	県立	15,080	15,280	- 200
	市立	1,400	1,480	- 80
	計	16,480	16,760	- 280
定時制課程	県立	720	720	± 0
	市立	160	240	- 80
	計	880	960	- 80
合 計	県立	15,800	16,000	- 200
	市立	1,560	1,720	- 160
	計	17,360	17,720	- 360
通信制課程	計	500	500	± 0

2 一括募集実施校 3校

学校名	一括募集学科
柴田農林	食農科学科 と 動物科学科
	森林環境科 と 園芸工学科
宮城農業	農業科 と 園芸科
米谷工業	機械システム科 と 電気システム科 と 情報技術科

3 推薦入試実施校

(1) 全日制課程

全校・全学科（80校152学科・コース）で実施

※ 分校も1校と数えている。また、複数の学科が一括募集を実施する場合はまとめて1学科として、同一学科でコース別に募集する場合はそれぞれのコースを1学科として数えている。

(2) 定時制課程

全校・全学科（12校18学科）で実施

※ 分校も1校と数えている。

4 推薦入試における面接実施校のうち「自己表現」を行う学校

1校(迫桜)

- 5 推薦入試において「口頭による試問」を行う学校
8校（白石，角田，仙台三，泉館山，黒川（電子機械科），富谷，古川，築館）
- 6 推薦入試において「英語による面接」を行う学校
1校（仙台東（英語科））
- 7 連携型入試実施校
1校（志津川）
- 8 連携型入試において「口頭による試問」を行う学校
1校（志津川）
- 9 一般入試における傾斜配点実施校 7校9学科・コース

学校番号	学科番号	学校名	学科・コース	傾斜配点教科	傾斜倍率
1	1	仙台向山	理数科	英語，数学	各1.5倍
2	2	仙台東	英語科	英語	2.0倍
3	3	泉館山	普通科	英語，数学	各1.5倍
4	4	多賀城	普通科	英語，数学	各1.5倍
5	5	富谷	普通科・人文コース	国語	2.0倍
	6	富谷	普通科・国際コース	英語	2.0倍
	7	富谷	普通科・理数コース	数学	2.0倍
6	8	古川	普通科	英語，数学	各1.5倍
7	9	古川黎明	普通科	英語	1.5倍

10 一般入試における面接・実技の実施校

(1) 全日制課程

面接実施校 16校29学科・コース（うち普通科7校）

実技実施校 3校

学校番号	学科番号	学校名	学科・コース	実施内容			実施日
				個人面接	集団面接	実技	
1	1	蔵王	普通科		○		3月7日
2	2	村田	総合学科		○		3月7日
3	3	柴田農林川崎	普通科	○			3月8日
4	4	柴田	体育科			○	3月7日
5	5	伊具	総合学科		○		3月7日
6	6	亘理	普通科・普通コース		○		3月7日
	7	亘理	普通科・園芸コース		○		3月7日
	8	亘理	食品化学科		○		3月7日
	9	亘理	商業科		○		3月7日
	10	亘理	家政科		○		3月7日
7	11	宮城野	美術科			○	3月8日
8	12	利府	スポーツ科学科			○（専攻）	3月7日
9	13	黒川	農業経営科		○		3月7日
	14	黒川	土木科		○		3月7日
10	15	松山	普通科	○			3月8日
	16	松山	家政科	○			3月8日

学校 番号	学科 番号	学校名	学科・コース	実施内容			実施日
				個人面接	集団面接	実技	
11	17	加美農業	農業科		○		3月7日
	18	加美農業	農業機械科		○		3月7日
	19	加美農業	生活技術科		○		3月7日
12	20	鹿島台商業	商業科		○		3月7日
13	21	田尻	普通科	○			3月7日
	22	田尻	商業科	○			3月7日
14	23	鷺沢工業	機械科	○			3月7日
	24	鷺沢工業	電子科	○			3月7日
15	25	一迫商業	流通経済科	○			3月7日
	26	一迫商業	会計科	○			3月7日
	27	一迫商業	情報処理科	○			3月7日
16	28	女川	普通科	○			3月8日
17	29	河南	農業科	○			3月7日
18	30	飯野川	普通科	○			3月8日
	31	飯野川	生活福祉科	○			3月8日
19	32	本吉響	総合学科	○			3月8日

(2) 定時制課程

面接実施校 11校15学科

学校 番号	学科 番号	学校名	学 科	実施内容			実施日
				個人面接	集団面接	実技	
1	1	白石七ヶ宿	普通科 / 昼	○			3月7日
2	2	大河原商業	普通科 / 夜	○			3月7日
3	3	宮城二工	電子機械科 / 夜	○			3月7日
	4	宮城二工	電気科 / 夜	○			3月7日
4	5	名取	普通科 / 夜	○			3月7日
5	6	貞山	普通科 / 昼	○			3月7,8日
	7	貞山	普通科 / 夜	○			3月7,8日
6	8	古川工業	機械科 / 夜	○			3月7日
	9	古川工業	電気科 / 夜	○			3月7日
7	10	佐沼	普通科 / 夜	○			3月7日
8	11	飯野川十三浜	普通科 / 昼	○			3月7日
9	12	気仙沼	普通科 / 夜	○			3月7日
10	13	函南萩陵※	普通科 / 夜	○			3月7,8日
11	14	仙台二工※	建築土木科 / 夜	○			3月7日
	15	仙台二工※	機械科 / 夜	○			3月7日

※は仙台市立高校を示す。

1.1 3%枠による出願関係

学区・地区ごと3%枠設定人数一覧

	3%枠 人数合計	推薦入試 設定人数	一般入試 設定人数
刈田・柴田学区	16	11	5
伊具学区	6	5	1
南部地区	22	16	6
亙理・名取学区	17	15	2
仙台南学区	53	46	7
中部南地区	70	61	9
仙台北学区	66	45	21
塩釜学区	30	24	6
黒川学区	9	5	4
中部北地区	105	74	31
大崎学区	21	17	4
遠田学区	7	5	2
登米学区	13	10	3
栗原学区	10	8	2
北部地区	51	40	11
石巻学区	32	19	13
飯野川学区	1	1	0
本吉学区	14	7	7
東部地区	47	27	20
全日制合計	295	218	77
H18全日制合計	299	215	84

1.2 連携型中高一貫教育に関する入試

連携型中高一貫教育を実施する宮城県志津川高等学校において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携中学校」という。）からの志願者を対象とした入学者選抜（以下「連携型入試」という。）を実施する。

なお、当該高等学校の推薦入試は連携中学校を除く中学校からの志願者を対象として実施し、同じく一般入試はすべての中学校からの志願者（ただし、県立高等学校通学区域規則による。）を対象として実施する。

(1) 連携中学校

南三陸町立志津川中学校、南三陸町立入谷中学校、南三陸町立戸倉中学校、南三陸町立歌津中学校

(2) 連携型入試の面接等の実施時期

推薦入試面接・実技等の実施期日と同日に実施

(3) 合格者、不合格者の取扱い

(ア) 合格者の取扱い

連携型入試による合格者は、一般入試及び第二次募集並びに通信制課程の選抜に出願できない。

(イ) 不合格者の取扱い

不合格者は、一般入試に出願できる。

平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜における募集定員等一覧

全日制課程

学校名	学科・コース	H19 募集 定員	男女別		推薦入学 の割合	推薦入試の実施内容			一般入試において				普通科 3%枠 人数	3%枠による出願		平成18年度		備考	
			男	女		調査書	調査書に加えるもの		傾斜配点		面接・実技等の実施			推薦入試 設定人数	一般入試 設定人数	一般入試 出願倍率	予備調査 倍率		
							面接	作文	その他	教科	倍率	実施内容							実施日
1 白石	普通科	160	○		30%以内	○	個人面接 (含口頭試問)	作文		-		-		4	3	1	0.91	0.89	
2 白石女	普通科	160		○	30%以内	○	個人面接	-		-			4	3	1	0.96	0.97		
	看護科	40		○	40%以内	○	個人面接	-		-			-			1.04	1.15		
3 蔵王	普通科	120	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		-	集団面接	3月7日	3	2	1	0.87	0.79		
4 白石工	機械科・生産技術コース	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-			-			1.54	1.48		
	機械科・制御技術コース	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-			-			0.77	1.05		
	電気科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-			-			1.21	1.33		
	工業化学科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-			-			0.97	0.73		
	建築科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-			-			1.08	0.88		
	設備工業科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-			-			0.96	0.83		
5 村田	総合学科	120	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-	集団面接	3月7日	-			1.00	1.08		
6 柴田農林 川崎	食農科学科・動物科学科 ★	80	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-			-			1.02	1.01		
	森林環境科・園芸工学科 ★	80	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-			-			1.35	0.96		
	普通科	80	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		-	個人面接	3月8日	2	1	1	0.44	0.49		
7 大河原商	流通マネジメント科	80	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-			-			1.02	1.08		
	OA会計科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-			-			1.17	1.48		
	情報システム科	80	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-			-			0.83	0.79		
8 柴田	普通科	120	○	○	30%以内	○	個人面接	-		-			3	2	1	0.98	0.99		
	体育科	80	○	○	60%以内	○	個人面接	-	実技	-	実技	3月7日	-			1.41	1.25		
刈田・柴田 学区計		1,480											16	11	5	0.97	0.97		
9 角田	普通科	200	○	○	30%以内	○	個人面接 (含口頭試問)	作文		-			6	5	1	1.01	1.00	1学級減	
10 伊具	総合学科	160	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-	集団面接	3月7日	-			1.03	0.94		
伊具 学区計		360											6	5	1	1.02	0.98		
南部地区合計		1,840											22	16	6	0.98	0.98		

平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜における募集定員等一覧

全日制課程

学校名	学科・コース	H19 募集 定員	男女別		推薦入学 の割合	推薦入試の実施内容			一般入試において				普通科 3%枠 人数	3%枠による出願		平成18年度		備考	
			男	女		調査書	調査書に加えるもの		傾斜配点		面接・実技等の実施			推薦入試 設定人数	一般入試 設定人数	一般入試 出願倍率	予備調査 倍率		
							面接	作文	その他	教科	倍率	実施内容							実施日
11 名取	普通科	240	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		-		-		7	6	1	1.38	1.19	
	家政科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		-		-			1.83	2.03	
12 名取北	普通科	280	○	○	30%以内	○	個人面接	-		-		-	8	7	1	1.61	1.29		
13 亶理	普通科・普通コース	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		集団面接	3月7日	1	1	0	1.29	1.00	
	普通科・園芸コース	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		集団面接	3月7日	1	1	0	1.00	0.85	
	食品化学科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		集団面接	3月7日	-			1.07	0.93	
	商業科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		集団面接	3月7日	-			1.46	1.30	
	家政科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		集団面接	3月7日	-			1.38	1.10	
14 宮城農	農業科・園芸科 ★	120	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		-		-			1.08	0.85	
	農業機械科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		-		-			1.45	1.40	
	食品化学科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		-		-			1.38	1.25	
	生活科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		-		-			0.96	1.00	
亶理・名取学区計		1,000											17	15	2	1.38	1.18		
15 仙台一	普通科	320	○		30%以内	○	-	-		-		-	9	8	1	1.32	1.28		
16 宮二女	普通科	280		○	30%以内	○	-	作文		-		-	8	7	1	1.52	1.51		
17 宮三女	普通科	280		○	30%以内	○	個人面接	作文		-		-	8	7	1	1.67	1.43		
18 仙台向山	普通科	160	○	○	30%以内	○	個人面接	-		-		-	4	3	1	1.16	1.10		
	理数科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		英語、数学 各1.5		-	-	-			1.35	1.05	
19 仙台南	普通科	320	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		-		-	9	8	1	1.49	1.59		
20 仙台西	普通科	280	○	○	30%以内	○	個人面接	-		-		-	8	7	1	1.62	1.46		
21 仙台東	普通科	240	○	○	30%以内	○	個人面接	-		-		-	7	6	1	1.43	1.40		
	英語科	40	○	○	40%以内	○	個人面接 (含英語面接)	-		英語 2.0		-	-	-			1.33	1.43	
22 宮城工	機械科	80	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-		-	-				1.40	1.36	
	電子機械科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-		-	-				1.38	1.25	
	電気科	80	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-		-	-				1.05	0.74	
	情報技術科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-		-	-				2.04	1.38	
	化学工業科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-		-	-				2.28	1.33	
	インテリア科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-		-	-				1.17	1.28	

平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜における募集定員等一覧

全日制課程

学校名	学科・コース	H19 募集 定員	男女別		推薦入学 の割合	推薦入試の実施内容			一般入試において				普通科 3%枠 人数	3%枠による出願		平成18年度		備考
			男	女		調査書	調査書に加えるもの		傾斜配点		面接・実技等の実施			推薦入試 設定人数	一般入試 設定人数	一般入試 出願倍率	予備調査 倍率	
							面接	作文	その他	教科	倍率	実施内容						
23 仙台工※	建築科	40	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	2.13	1.78		
	土木科	40	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	2.00	1.50		
	機械科	80	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	1.60	1.80		
	電気科	80	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	2.38	1.55		
仙台南学区計		2,520										53	46	7	1.51	1.40		
中部南地区合計		3,520										70	61	9	1.47	1.34		
24 仙台二	普通科	320	○	○	20%程度	○	個人面接	作文	-	-	-	9	6	3	(1.33)	(1.38)	共学化	
25 仙台三	普通科	240	○		30%以内	○	個人面接 (含口頭試問)	作文	-	-	-	7	4	3	1.66	1.39		
	理数科	80	○		40%以内	○	個人面接 (含口頭試問)	作文	-	-	-	-	-	-	1.46	0.99		
26 宮一女	普通科	200		○	30%以内	○	-	作文	-	-	-	6	5	1	1.26	1.20	1学級減	
	理数科	80		○	40%以内	○	-	作文	-	-	-	-	-	-	1.54	1.20		
27 宮城広瀬	普通科	280	○	○	30%以内	○	個人面接	-	-	-	-	8	7	1	1.89	1.41		
28 泉	普通科	240	○	○	30%以内	○	-	作文	-	-	-	7	2	5	1.95	1.87		
	英語科	40	○	○	40%以内	○	-	作文	-	-	-	-	-	-	1.96	1.65		
29 泉松陵	普通科	280	○	○	30%以内	○	個人面接	作文	-	-	-	8	7	1	1.62	1.38		
30 泉館山	普通科	280	○	○	25%程度	○	個人面接 (含口頭試問)	作文	英語、数学 各1.5	-	-	8	6	2	1.44	1.47		
31 宮城野	普通科	160	○	○	30%以内	○	集団面接	作文	-	-	-	4	2	2	1.31	1.19		
	美術科	40	○	○	60%以内	○	個人面接	-	実技	-	実技	3月8日	-	-	1.44	1.48		
	総合学科	80	○	○	40%以内	○	集団面接	作文	-	-	-	-	-	-	1.73	1.41		
32 仙台※	普通科	320	○	○	30%以内	○	個人面接	作文	-	-	-	9	6	3	-	-	男女別募集 廃止	
33 仙台商※	商業科	240	○		40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	-	学科改編 1学級減	
34 仙台女商※	商業科	200		○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	1.40	1.17	1学級減	
仙台北学区計		3,080										66	45	21	1.57	1.38		
35 塩釜	普通科	160	○		30%以内	○	個人面接	-	-	-	-	4	3	1	1.54	1.44		
	商業科	80	○		30%程度	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	1.65	1.01		
36 塩釜女	普通科	200		○	30%以内	○	個人面接	-	-	-	-	6	5	1	1.71	1.61		

18

平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜における募集定員等一覧

全日制課程

学校名	学科・コース	H19 募集 定員	男女別		推薦入学 の割合	推薦入試の実施内容			一般入試において				普通科 3%枠 人数	3%枠による出願		平成18年度		備考	
			男	女		調査書	調査書に加えるもの			傾斜配点		面接・実技等の実施		推薦入試 設定人数	一般入試 設定人数	一般入試 出願倍率	予備調査 倍率		
							面接	作文	その他	教科	倍率	実施内容							実施日
37 多賀城	普通科	280	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		英語, 数学 各1.5	—		8	7	1	1.17	1.12		
38 松島	普通科	200	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		—	—		6	4	2	1.87	1.38		
39 利府	普通科	200	○	○	30%以内	○	集団面接	—		—	—		6	5	1	1.30	1.65		
	スポーツ科学科	80	○	○	60%以内	○	集団面接	—	実技(専攻実技)	—	実技(専攻実技)	3月7日	—			2.16	1.49		
塩釜学区計		1,200											30	24	6	1.53	1.39		
40 黒川	普通科	80	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		—	—		2	1	1	1.38	1.19		
	電子機械科	80	○	○	40%以内	○	個人面接 (含口頭試問)	作文		—	—		—			0.71	0.64		
	農業経営科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		—	集団面接	3月7日	—			1.12	1.10		
	土木科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		—	集団面接	3月7日	—			0.78	0.65		
41 富谷	普通科・人文コース	120	○	○	40%以内	○	個人面接 (含口頭試問)	作文		国語	2.0	—	3	2	1	1.68	1.55		
	普通科・国際コース	80	○	○	40%以内	○	個人面接 (含口頭試問)	作文		英語	2.0	—	2	1	1	1.27	1.18		
	普通科・理数コース	80	○	○	40%以内	○	個人面接 (含口頭試問)	作文		数学	2.0	—	2	1	1	0.94	1.03		
黒川学区計		520											9	5	4	1.13	1.09		
中部北地区合計		4,800											105	74	31	1.51	1.35		
42 古川	普通科	240	○	○	30%以内	○	個人面接	作文	口頭による 試問	英語, 数学 各1.5	—		7	6	1	1.33	1.32		
43 古川黎明	普通科	240	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		英語	1.5	—	7	6	1	1.14	1.11		
44 岩出山	普通科	160	○	○	30%以内	○	個人面接	—		—	—		4	3	1	0.95	0.87		
45 中新田	普通科	80	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		—	—		2	1	1	1.00	1.03		
	商業科	80	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		—	—		—			1.07	1.03		
46 松山	普通科	40	○	○	30%以内	○	個人面接	—		—	個人面接	3月8日	1	1	0	0.86	0.78		
	家政科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	—		—	個人面接	3月8日	—			1.42	1.33		
47 加美農	農業科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		—	集団面接	3月7日	—			0.94	0.70		
	農業機械科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		—	集団面接	3月7日	—			1.23	1.23		
	生活技術科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		—	集団面接	3月7日	—			1.07	0.90		

平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜における募集定員等一覧

全日制課程

学校名	学科・コース	H19 募集 定員	男女別		推薦入学 の割合	推薦入試の実施内容				一般入試において				普通科 3%枠 人数	3%枠による出願		平成18年度		備考
			男	女		調査書	調査書に加えるもの			傾斜配点		面接・実技等の実施			推薦入試 設定人数	一般入試 設定人数	一般入試 出願倍率	予備調査 倍率	
							面接	作文	その他	教科	倍率	実施内容	実施日						
48 古川工	機械科	80	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	-	1.42	1.61		
	電気電子科	40	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.79	0.58		
	化学技術科	40	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.92	0.90		
	土木情報科	40	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	-	1.47	1.05		
	建築科	40	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.75	0.78		
49 鹿島台商	商業科	120	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	集団面接	3月7日	-	-	-	0.77	0.62		
大崎学区計		1,360											21	17	4	1.08	1.04		
50 涌谷	普通科	160	○	○	30%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	4	3	1	1.34	1.06		
51 田尻	普通科	80	○	○	30%以内	○	個人面接	作文	-	-	個人面接	3月7日	2	1	1	0.91	0.98		
	商業科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文	-	-	個人面接	3月7日	-	-	-	0.95	0.48		
52 小牛田農林	農業技術科・農業科学コース	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	2.00	1.15		
	農業技術科・農業土木コース	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	1.12	1.43		
	総合学科	120	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	1.24	1.49		
53 南郷	普通科	40	○	○	30%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	1	1	0	0.34	0.38		
	産業技術科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.50	0.48		
遠田学区計		560											7	5	2	1.07	1.04		
54 佐沼	普通科	240	○	○	30%以内	○	個人面接	作文	-	-	-	-	7	6	1	1.13	1.16		
55 登米	普通科	120	○	○	30%以内	○	個人面接	作文	-	-	-	-	3	2	1	1.02	1.09		
	商業科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文	-	-	-	-	-	-	-	1.13	0.93	1学級減	
56 上沼	普通科	80	○	○	30%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	2	1	1	0.88	0.79		
	農業技術科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.69	0.60		
57 米山	普通科	40	○	○	30%以内	○	個人面接	作文	-	-	-	-	1	1	0	0.97	0.88		
	園芸ビジネス科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文	-	-	-	-	-	-	-	0.82	0.60		
58 米谷工	機械システム科・電気システム科・情報技術科★	120	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.94	0.88		
	自動車科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.65	0.93		
登米学区計		760											13	10	3	0.98	0.97		
59 築館	普通科	240	○	○	30%以内	○	個人面接	作文	口頭による 試問	-	-	-	7	6	1	0.88	0.88		
60 岩ヶ崎	普通科・文系教養コース	80	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	2	1	1	0.37	0.68		
	普通科・理系教養コース	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	1	1	0	0.88	0.78		
61 迫桜	総合学科	200	○	○	40%以内	○	面接 (自己表現)	-	-	-	-	-	-	-	-	1.43	1.23		

平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜における募集定員等一覧

全日制課程

学校名	学科・コース	H19 募集 定員	男女別		推薦入学 の割合	推薦入試の実施内容			一般入試において				普通科 3%枠 人数	3%枠による出願		平成18年度		備考
			男	女		調査書	調査書に加えるもの		傾斜配点		面接・実技等の実施			3%枠 推薦入試 設定人数	一般入試 設定人数	一般入試 出願倍率	予備調査 倍率	
							面接	作文	その他	教科	倍率	実施内容						
62 篤 沢 工	機械科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文	-	-	個人面接	3月7日	-	-	-	0.62	0.50	
	電子科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文	-	-	個人面接	3月7日	-	-	-	0.87	0.63	
63 一 迫 商	流通経済科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文	-	-	個人面接	3月7日	-	-	-	0.89	1.00	
	会計科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文	-	-	個人面接	3月7日	-	-	-	0.34	0.38	
	情報処理科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文	-	-	個人面接	3月7日	-	-	-	0.61	0.65	
栗原学区計		760											10	8	2	0.88	0.88	
北部地区合計		3,440											51	40	11	1.01	0.99	
64 石 巻	普通科	240	○	○	30%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	7	6	1	1.15	1.25	
65 石巻好文館	普通科	200	○	○	30%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	6	2	4	1.00	0.93	
66 石 巻 西	普通科	200	○	○	30%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	6	5	1	1.06	1.04	
67 女 川	普通科	80	○	○	30%以内	○	個人面接	-	-	-	個人面接	3月8日	2	1	1	0.81	0.59	
68 河 南	普通科	200	○	○	30%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	6	2	4	0.85	0.70	
	農業科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	個人面接	3月7日	-	-	-	0.65	0.43	
69 宮城水産	海洋総合科	120	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.87	0.84	
	情報科学科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.97	0.53	
70 石 巻 工	機械制御科	80	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	-	1.19	1.40	
	電気情報科	40	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	-	1.17	1.35	
	化学技術科	40	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.92	0.93	
	土木システム科	40	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	-	1.35	1.35	
	建築科	40	○	○	40%以内	○	集団面接	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00	1.58	
71 石 巻 商	総合ビジネス科	200	○	○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	1.27	1.20	
72 石巻市立女※	普通科・国際教養コース	40		○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	1	1	0	0.93	0.88	
	普通科・人文科学コース	80		○	30%程度	○	個人面接	-	-	-	-	-	2	1	1	0.81	0.93	
	普通科・生活教養コース	80		○	30%程度	○	個人面接	-	-	-	-	-	2	1	1	1.14	1.35	
73 石巻市女商※	商業科	200		○	40%以内	○	個人面接	-	-	-	-	-	-	-	-	0.66	0.63	
石巻学区計		1,960											32	19	13	0.98	0.98	
74 飯野川	普通科	40	○	○	30%以内	○	個人面接	作文	-	-	個人面接	3月8日	1	1	0	0.38	0.45	
	生活福祉科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	作文	-	-	個人面接	3月8日	-	-	-	0.41	0.45	
飯野川学区計		80											1	1	0	0.39	0.45	

平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜における募集定員等一覧

全日制課程

学校名	学科・コース	H19 募集 定員	男女別		推薦入学 の割合	推薦入試の実施内容			一般入試において				普通科 3%枠 人数	3%枠による出願		平成18年度		備考	
			男	女		調査書	調査書に加えるもの		傾斜配点		面接・実技等の実施			推薦入試 設定人数	一般入試 設定人数	一般入試 出願倍率	予備調査 倍率		
							面接	作文	その他	教科	倍率	実施内容							実施日
75 気仙沼	普通科	280	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		-		-		8	4	4	1.18	1.13	
76 気仙沼西	普通科	120	○	○	30%以内	○	個人面接	作文		-		-		3	2	1	1.26	1.19	
77 志津川	普通科 ☆	120	○	○	10%以内	○	個人面接	作文		-		-		3	1	2	1.06	1.13	連携型 中高一貫教育
	情報ビジネス科 ☆	40	○	○	20%以内	○	個人面接	作文		-		-		-			0.39	0.60	
78 本吉響	総合学科	160	○	○	40%以内	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月8日	-			0.80	0.72	
79 気仙沼向洋	情報海洋科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-		-		-			1.66	1.58	
	産業経済科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-		-		-			1.38	1.23	
	機械技術科	40	○	○	40%以内	○	個人面接	-		-		-		-			1.08	0.95	
本吉学区計		840												14	7	7	1.09	1.05	
東部地区計		2,880												47	27	20	0.99	0.99	
全日制合計		16,480												295	218	77	1.24	1.17	

(注) ※は市立の高等学校である。

★は一括募集を行う学科である。

☆は連携型入試を行う学科である。

平成18年度「一般入試出願倍率」及び「予備調査倍率」の欄の()付き数字は、平成19年度入試で共学化する学校の参考数字である。

農業高等学校秋保校及び黒川高等学校大郷校は、分校の再編基準に基づき、平成19年度入試から新たな募集を行わない。

連携型入試

学校名	学科・コース	H18 募集 定員	男女別		連携型入試の 入学者の割合	連携型入試の実施内容			
			男	女		調査書	調査書に加えるもの		
							面接	作文	その他
77 志津川	普通科	120	○	○	80%以内	○	個人面接 (含口頭試問)	作文	
	情報ビジネス科	40	○	○	60%以内	○	個人面接 (含口頭試問)	作文	

平成19年度宮城県公立高等学校入学者選抜における募集定員等一覧

定時制課程

学校名	学科・コース	H19 募集 定員	男女別		推薦入学 の割合	推薦		推薦入試の実施内容			一般入試において				平成18年度		備考	
			男	女		新卒者	社会人	調査書	調査書に加えるもの			傾斜配点		面接・実技等の実施		一般入試 出願倍率		予備調査 倍率
									面接	作文	その他	教科	倍率	実施内容	実施日			
1 白石七ヶ宿	普通科 / 昼	40	○	○	30%以内	○	-	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7日	0.18	0.15	
2 大河原商	普通科 / 夜	80	○	○	30%以内	○	○	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7日	0.53	0.35	統合 1学級増
3 宮城二工	電子機械科 / 夜	40	○	○	40%以内	○	○	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7日	0.18	0.20	
	電気科 / 夜	40	○	○	40%以内	○	○	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7日	0.21	0.10	
4 名 取	普通科 / 夜	40	○	○	15%程度	-	○	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7日	0.60	0.45	
5 貞 山	普通科 / 昼	120	○	○	30%以内	○	-	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7,8日	1.01	0.87	
	普通科 / 夜	40	○	○	30%以内	○	○	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7,8日	0.90	0.45	
6 古川工業	機械科 / 夜	40	○	○	40%以内	○	○	○	個人面接	-		-		個人面接	3月7日	0.43	0.35	
	電気科 / 夜	40	○	○	40%以内	○	○	○	個人面接	-		-		個人面接	3月7日	0.20	0.13	
7 佐 沼	普通科 / 夜	40	○	○	30%以内	○	○	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7日	0.28	0.23	
8 東松島	普通科 / I部(午前)	40	○	○	30%以内	○	○	○	個人面接	作文		-		-		1.42	1.93	
	普通科 / II部(午後)	40	○	○	30%以内	○	○	○	個人面接	作文		-		-		1.36	1.05	
	普通科 / III部(夜間)	40	○	○	30%以内	○	○	○	個人面接	作文		-		-		0.69	0.45	
9 飯野川十三浜	普通科 / 昼	40	○	○	30%以内	○	-	○	個人面接	-		-		個人面接	3月7日	0.25	0.15	
10 気仙沼	普通科 / 夜	40	○	○	30%以内	○	○	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7日	0.15	0.13	
11 仙台圏南萩陵 ※	普通科 / 夜	80	○	○	30%以内	○	○	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7,8日	0.59	0.43	1学級減
12 仙台二工 ※	建築土木科 / 夜	40	○	○	20%程度	○	○	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7日	-	-	学科改編 1学級減
	機械科 / 夜	40	○	○	20%程度	○	○	○	個人面接	作文		-		個人面接	3月7日	0.87	0.78	
定 時 制 合 計		880														0.56	0.47	

(注) ※は市立の高等学校である。

白石高等学校定時制課程は、大河原商業高等学校定時制課程との統合により、平成19年度入試から新たな募集を行わない。

県立高等学校の通学区域（学区制）の在り方について

答申素案
（案）

平成18年7月13日

高等学校入学者選抜審議会
学区制検討小委員会

目 次

1	通学区域の現状と諸情勢の変化 -----	1
	(1) 通学区域の現状	
	イ 現状	
	ロ 「3%枠」の活用状況	
	(2) 高校教育を取り巻く諸情勢の変化	
	イ 高校教育の普及と機会均等	
	ロ 生徒のニーズの多様化	
	ハ 少子化の進行	
	ニ 生活圏の拡大及び交通網の整備	
	ホ 法制度・全国の動向等	
2	通学区域に関する県民等の意識 -----	4
3	通学区域の今後の方向性の検討 -----	5
	(1) 通学区域の維持	
	(2) 通学区域の縮小	
	(3) 通学区域の拡大	
	(4) 通学区域の撤廃	
4	今後の通学区域の在り方 -----	7
	(1) 通学区域の基本的な考え方	
	(2) 今後の見直しの方向	
	(3) 見直しの実施に当たって	

1 通学区域の現状と諸情勢の変化

(1) 通学区域の現状

イ 現状

通学区域（学区制）は、高校教育の普及及びその機会均等を図るため、昭和23年に法制度化され、本県では、昭和25年に、生活圈、学校数・収容人数、通学距離、交通網の実態等を考慮し、全日制課程普通科について13の通学区域を設定した。

その後、昭和40年代後半の受験競争激化への対応として、昭和52年には仙台学区を南北に分割し、さらに平成13年には、生徒のニーズの多様化などの教育環境の変化を踏まえ、生徒の学校選択の自由を拡大するため、通学区域の統合及び通学区域を越えた入学者の受入枠として「3%枠」の設定などの改正が行われた。

その結果、通学区域は現在、南部地区（刈田柴田学区・伊具学区）・中部南地区（亘理名取学区・仙台南学区）・中部北地区（仙台北学区・塩釜学区・黒川学区）・北部地区（大崎学区・遠田学区・登米学区・栗原学区）・東部地区（石巻学区・飯野川学区・本吉学区）の5地区・14学区となっている。

なお、全日制課程の専門学科（工業、商業、農業、理数科、英語科、体育科等）及び総合学科並びに定時制課程の通学区域は全県一学区である。

ロ 「3%枠」の活用状況

「3%枠」は「入れる学校から入りたい学校へ」という生徒の希望に一定の役割を發揮しているところではあるが、その活用状況を見ると、制度を導入した平成13年度を除く5年間では、出願者数、合格者数ともにほぼ横ばいの状況で、全体としての活用率は低く、その活用は中部南地区及び中部北地区に集中し、他の地区での活用は低調である。

平成18年度入試では、ほぼ半数の高校で3%枠が活用されているが、その8割以上が中部南・中部北地区にある高校であり、前年度とほぼ同様の傾向である。3%枠を充足している高校も、そのほとんどが仙台市内の高校である。

なお、3%枠による出願者は推薦入試で多く、一般入試での活用は少ない。

(2) 高校教育を取り巻く諸情勢の変化

生徒のニーズの多様化、少子化の進展による急速な中学校卒業生数の減少、交通網の発達や生活圏の拡大等、今日の教育を取り巻くニーズや社会経済情勢は大きく変容してきており、それらを踏まえた対応が必要となっ
てきている。

イ 高校教育の普及と機会均等

本県の通学区域は、高校教育の普及及びその機会均等並びに地域間の均衡を基本に、地域の実情に即した高校づくりと高校教育全体の向上、特定の高校に志願者が集中することから生ずる受験競争の弊害除去、通学の便、経済的負担の軽減等にも配慮して設定されてきた。

また、それぞれの通学区域毎に、生徒の進学状況や地域の実情等を踏まえた高校の整備が進められ、その結果、通学区域設定時の昭和25年に41.8%だった高校進学率は、平成18年には98.4%に達し、通学区域制度は、その目的である高校教育の普及及びその機会均等の実現に大きな役割を果たし、成果を挙げたと言える。

ロ 生徒のニーズの多様化

今日の複雑化・多様化した社会情勢を背景として、生徒一人一人の考え方や希望等も多様化してきている。

また、生徒の学習意欲の低下や中途退学など、生徒自身のニーズと密接に関連する問題の顕在化も懸念されている。

このような中で、本県では、生徒一人一人の個性を重視する教育を推進するため、高校普通科において、単位制やコース制、中高一貫教育校の導入を進めるなど、多様な学びの場の確保を図ってきているところであるが、生徒のニーズの多様化に伴い、生徒が、その個性や能力、そして進路希望等にあった学校を自由に選択できるようさらに配慮する必要が生じてきている。

ハ 少子化の進行

本県の中学校卒業生数は、平成元年の35,137人をピークとして減少傾向が続いており、平成18年には23,598人、平成27年（現小学校1年

生)には約 21,700 人、平成 32 年(現 1 歳児)には約 19,400 人となるなど、今後も減少が続くことが予測されている。

平成 18 年と平成 32 年の中学校卒業見込者数を単純に比較すると、県全体では 2 割程度減少し、特に南部地区、北部地区及び東部地区においては 3 割程度の減少が見込まれ、地域によっては学校規模の縮小を招き、学校選択の機会が十分に確保されなくなるおそれもある。

次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに育つ環境づくりを推進することは社会全体の課題であり、通学区域についても、子ども一人一人の能力、適性、興味関心等に配慮し、これを伸ばしていく観点からその在り方を考えることが必要である。

二 生活圏の拡大及び交通網の整備

仙台都市圏を始めとする県内における交通網の整備等により、交通の利便性が向上したことや、自家用自動車の保有台数が増加したことなどにより、広域での移動の常態化や生活圏の拡大が見られる。

このような中で、全県一学区である総合学科や理数科・英語科等の専門学科においては県内の広い範囲から生徒が通学している実態も見られる。

こうした状況の変化を踏まえ、高校普通科の通学区域の在り方については、現在の通学区域を越えた生徒の移動についても配慮する必要がある。

ホ 法制度・全国の動向等

高校教育の普及とその機会均等を図るという通学区域の意義は、制度制定当初に比べ薄れてきているとの観点から、平成 13 年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、通学区域に係る規定が削除された。そのことにより、通学区域の設定は、その存廃までを含め、各教育委員会の判断に委ねられることとなった。

その結果、各都道府県を見ると、通学学区域を撤廃したのが 12 都県、撤廃の方向で検討しているのが 4 県、通学区域を拡大したのが 10 道府県、拡大の方向で検討しているのが 1 府、通学区域を撤廃及び拡大の方向で検討しているのが 1 県、また他地区からの受け入れ枠を拡大する県も見受けられるなど、全国的に通学区域の見直しが進んでいる。

2 通学区域に関する県民等の意識

中学生（1・2年）及びその保護者、中学校教員（進路指導担当）、一般県民の通学区域に関する意向などを把握するため、平成17年11月～平成18年2月にかけて意識調査を実施した。

その結果を見ると、「高校を選択する際の考え方」について、中学生、保護者ともに「進学や就職など自分の希望に合う高校」との回答が過半数を占め、次いで「自宅から無理なく通える高校」との回答が約3割であった。

また、「通学区域の今後の在り方」については、中学生、保護者及び中学校教員（進路指導担当）ともに「学区を拡大」との回答が3～4割を占め、一般県民では「学区を拡大」と「学区を撤廃」の回答が多く、拮抗していた。全体としては、「学区を拡大」と「学区を撤廃」を合わせた比率が全体の3分の2程度を占め、「現状維持」の回答は中学生、保護者、一般県民で4分の1程度、中学校教員（進路指導担当）で3割程度であった。

さらに「通学区域の検討に当たって気をつけるべき点」については、「高校選択について生徒の希望を大切にする」の回答が最も多く、中学生で6割、保護者、中学校教員（進路指導担当）及び一般県民で5割を占め、「特定校への志願集中を避ける」を挙げたのが保護者、中学校教員（進路指導担当）で4割、一般県民で3割を占めた。

なお、「遠距離通学についての考え」については、中学生及び中学校教員（進路指導担当）では、「希望校に通えるなら通学時間は長くても良い」との回答が最も多く、4割以上を占め、保護者及び一般県民では、「通学時間が長いとゆとりが無くなり適当ではない」とする回答が最も多く、ともに4割弱を占めた。全体として、「希望校に通えるなら通学時間は長くても良い」と「交通が便利になっているのであまり問題ではない」を合わせた回答は中学生及び中学校教員（進路指導担当）で6割、保護者及び一般県民で5割程度であった。

3 通学区域の今後の方向性の検討

本審議会では、現行の通学区域の現状、3%枠の活用状況、高校教育を取り巻く諸情勢の変化、さらには県民等の意識を踏まえ、通学区域の在り方について、現行の通学区域を「維持」、「縮小」、「拡大」及び「撤廃」の4つの視点からそれぞれ以下のとおり検討した。

(1) 通学区域の維持

通学区域の設定は、居住地により学校の選択幅が異なるなどの制約を伴うものとなる。

その制約を緩和するため、宮城県では3%枠や中部南地区及び中部北地区間の調整措置など、生徒の選択幅の均衡に配慮した措置が設けられているものの、全体として複雑で分かりにくく、活用しにくい仕組みとなっている。

特に3%枠については、全体として、限られた少ない枠であるということ自体が、一部の生徒にとっては、自由に学校を選択する上で心理的制約となっており、また、その活用は推薦入試に偏り、一般入試での受験が事実上厳しい状況にあることが指摘されている。

現行の通学区域及びその制度は、平成13年度の改正以来5年が経過し、ほぼ定着しているものの、生徒の自由な学校選択の機会を十分に保障しているとは言えない状況にある。

(2) 通学区域の縮小

現行の通学区域を縮小することについては、高校所在地に近い地域の生徒が通学することにより、高校と地域とのつながりが緊密に維持されるものの、新たな通学区域の設定に伴い、学校の選択幅が小さくなることに伴う中学生の混乱や、中学校卒業生数の減少の著しい地域における高校の小規模化などが懸念される。

また、本県の通学区域は、これまで、生徒のニーズの多様化などに対応し、選択の幅を拡大する方向で改正を行ってきており、生徒の自由な学校選択の機会を保障し、高校教育の活性化を図るという観点からは、通学区域を縮小するという選択肢は適当ではないと考える。

(3) 通学区域の拡大

現行の通学区域を拡大する方法としては、区域の拡大・再編と、3%枠の拡大が考えられる。

区域の拡大・再編は、地理的要件や交通利便性等から、中部南地区及び中部北地区間の線引きの廃止が考えられるが、その場合、中部南地区及び中部北地区の生徒のみ学校の選択幅が著しく拡大することとなり、他の通学区域との均衡上、公平な対応とは言えない。

南部地区、北部地区及び東部地区については、中部南地区又は中部北地区との再編が考えられるものの、通学区域の全体の配置状況や拡大の効果等を考慮すると、区域の拡大というよりは、むしろ、通学区域の撤廃（全県一学区化）に近い状態となる。

一方、3%枠の拡大は、現制度の緩やかな改正であり、生徒や保護者にとって比較的理解しやすいものであるが、中部南地区及び中部北地区間の調整措置等との関係が懸念される。

(4) 通学区域の撤廃

通学区域の撤廃は、生徒の希望や学習ニーズの多様化等に対応し、自由な学校選択の機会の保障につながるものとなる。このことにより各高校間の切磋琢磨も促され、高校教育の一層の向上につながることも期待される。

また、現行の学区間の乗り入れ（3%枠）や中部南地区及び中部北地区間の調整措置等も不要となり、生徒が入りたい学校を自由に選択できる単純で、分かりやすい制度となる。

しかし、特定の地区・学校への志願者の集中や学校間格差の助長、それに伴い生徒や保護者の不安を招くおそれがあること等も懸念される。

4 今後の通学区域の在り方

今後の通学区域の在り方については、本県の高次教育の将来像や、学校づくりも視野に入れ、在るべき姿を見いだしていくことが肝要である。

(1) 通学区域の基本的な考え方

21世紀の“みやぎ”の創造的発展を担う人材の育成に当たっては、自ら学ぶ意欲を育て、個性、能力を伸ばしていくことが重要である。

通学区域の制度が法制化された当時において、その理念・目的とされた高次教育の普及とその機会均等については、現在においては概ね達成されつつあり、今後は生徒の希望をより一層大切にし、学校選択の自由を拡大する方向で検討することが望ましい。

今回実施した通学区域に関する意識調査結果においても、「高校選択については生徒の希望を大切にすべき」、「通学区域については（拡大や撤廃等の）見直しが必要」という意見が多数を占めている。

また、学校選択の自由の拡大により、高校にとっても、生徒に選ばれるための魅力ある学校づくりがより強く要請されることから、高校間において健全な競争による切磋琢磨が促され、各高校独自の創意と工夫に基づいた教育や魅力づくりが進むことが期待される。

以上の点を踏まえ、通学区域は、生徒の学校選択の自由を拡大する方向で見直すことが望ましい。

(2) 今後の見直しの方向

生徒の学校選択の自由を拡大する観点で通学区域を見直すとすれば、既に検討した4つの視点のうち、「3%枠の拡大」か「通学区域の撤廃」のいずれかの選択となる。

生徒の自由な学校選択の機会を保障するという観点から見た場合、通学区域の撤廃が最も望ましい。

また、他地区から多様な生徒を受け入れることによる高校内部の活性化や、高校間での「魅力ある学校づくり」の競い合いによる高次教育全体の活性化という観点から見ても、通学区域の撤廃が最も効果的である。

さらに、居住地区による学校の選択機会の差を解消するためには、3%

枠の拡大より通学区域の撤廃が望ましい。

なお、3%枠の拡大を選択した場合は、中部南地区及び中部北地区間の調整措置など、複雑で分かりにくい制度が引き続き残ることとなるが、通学区域を撤廃した場合には、こうした調整措置が不要となり、生徒、保護者にとって、より分かりやすい入試制度となる。

本審議会としては、以上のことを踏まえ、生徒の学校選択の自由を拡大し、本県の県立高校のさらなる活性化と魅力ある学校づくりを願う見地から、特定の地区・学校への志願者の集中や学校間格差の助長などの懸念はあるものの、現在の通学区域については、撤廃し、全県一学区とすることが望ましいと判断した。

(3) 見直しの実施に当たって

通学区域の見直しは、生徒の学校選択や中学校での進路指導に大きな影響をもたらすものである。

このため、通学区域の撤廃に当たっては、生徒、保護者、学校現場等において不安や混乱を招くことのないよう、制度の円滑な実施に向けて、生徒、保護者に対して十分に周知を図ることが望まれる。

なお、通学区域の撤廃については、特定の地区・学校への志願者の集中や学校間格差の助長につながりやすいとする指摘がある。

このほか、遠距離通学、地域と高校のつながり、私立学校との協調なども通学区域の見直しに当たっては十分配慮する必要がある問題である。

このため、県教育委員会においては、中学校における進路指導の充実、高校における学校情報の公開や発信の充実強化など、生徒が適切に学校を選択できる環境を整備するとともに、各高校の伝統や個性を生かし、生徒の希望する進路が達成される学校づくりを重点的に進めるなど、地域に根ざし、地域から信頼される「魅力ある学校づくり」をこれまで以上に積極的に推進することが望まれる。

学区制検討小委員会における検討経過について

第1回(平成17年8月3日(水)午後2時～3時30分 企業局会議室)

- 座長の選出 大桃敏行東北大学大学院教育学研究科教授を小委員会座長に選出した。
- 会議の公開 原則公開とし、会議の内容により一部非公開とすることを決定した。

- (1) 学区制に関する諮問の内容等について
- (2) 県立高校の通学区域(学区制)のこれまでの経緯について
- (3) 学区制検討小委員会の今後の進め方について

〔決定事項〕

- 今後の進め方 ・審議は、平成17年8月～平成18年9月頃までの概ね1年間を予定
- ・平成17年度内に中間報告を行う予定

第2回(平成17年10月4日(火)午後1時30分～4時 教育庁会議室)

- (1) 現行の学区制の課題整理
- (2) 県民等の意見集約の方法等について

〔決定事項〕

- 県民意見等は聴取する。手法はアンケート調査とし、実施時期は中間報告の作成前とする。
- 対象は、中学1・2年生及びその保護者、一般県民、教員(但し、中学教員のみとするか、高校教員まで含めるかについては次回決定事項とした。)
- 次回、委員会意見を踏まえ、内容案を提示する。

第3回(平成17年11月9日(水)午後3時～5時 第一会議室)

- (1) 学区制の在り方を検討するに当たっての留意点等について
- (2) 学区制に関するアンケート調査の内容等について

〔決定事項〕

- 学区制に関するアンケートの設問内容等について決定した。

第4回(平成17年12月20日(火)午前10時～正午 教育庁会議室)

- (1) 3%枠の活用状況の分析及び総合学科等への入学者の動向等について
- (2) 学区制の今後の基本的な方向について

〔決定事項〕

- これまでの検討経過を確認し、1月～3月にかけての小委員会での検討スケジュールを決定した。
- 1月～3月の小委員会については、意思形成過程であることや、委員会の円滑な進行を図るため、非公開で行うことを決定した。

第5回(平成18年1月24日(火)午前10時～正午 自治会館303会議室) 【非公開】

- (1) 県立高等学校の通学区域(学区)に関する意識調査結果の概要(中学生・保護者・中学校(進路指導主事)分)について
- (2) 学区制の今後の基本的な方向について

〔決定事項〕

- 学区制の今後の在り方について、「現状維持・縮小・拡大・撤廃」等の基本的な選択肢を比較検討し、このうち、現状維持・縮小・拡大(地区の統合再編)については、不相当とした。

第6回(平成18年2月15日(水)午前9時30分～11時30分 自治会館207会議室) 【非公開】

- (1) 「県立高等学校の通学区域(学区)に関する意識調査結果」について
- (2) 「通学区域(学区制)の在り方についての中間まとめ(案)」について

〔決定事項〕

- 「通学区域(学区制)の在り方についての中間まとめ(案)」について検討し、細部の修正については座長一任とした上で、事務局案を了承した。

第7回(平成18年3月28日(火)午後1時～2時 第一会議室)

- (1) 第3回高等学校入学者選抜審議会への報告事項について
- (2) 「通学区域(学区制)の今後の在り方について(中間報告)」(案)について
- (3) 今後のスケジュールについて

〔決定事項〕

- 「通学区域(学区制)の今後の在り方について(中間報告)」(案)を決定し、審議会に報告することとした。

第8回(平成18年4月27日(木)午後2時～4時 教育庁会議室)

- (1) 高校所在地区以外からの入学者・受検者等の動向及び今後の3%枠の在り方についての検討基礎資料について

〔内容〕

- 3%枠を拡大する場合の今後の在り方について検討した。

第9回(平成18年5月24日(水)午後3時～5時 教育庁会議室) 【非公開】

- (1) 通学区域(学区制)見直しの基本方向について

〔決定事項〕

- 通学区域の今後の方向性について検討し、「3%枠の拡大」と「通学区域の撤廃」のうち、小委員会の意見としては「通学区域の撤廃」の方向に決定した。(参考資料2参照)

第10回(平成18年6月15日(木)午後2時～4時 教育庁会議室) 【非公開】

- (1) 通学区域(学区制)見直しの基本方向について

- (2) 「県立高等学校の通学区域(学区制)の在り方について」(答申素案)(案)について

〔決定事項〕

- 通学区域を撤廃する場合の経過措置や留意点等について検討し、一部の委員から「一定の経過措置を設けるべきではないか」とする意見もあったが、小委員会意見としては、経過措置は設けない方向が望ましいと決定された。
- 「県立高等学校の通学区域(学区制)の在り方について」(答申素案)(案)について検討し、細部については、各委員が次回小委員会までに検討し、修正は座長一任とすることとした上で、大筋で了承した。

第11回(平成18年7月13日(木)午後1時30分～ 第一会議室)

- (1) 「県立高等学校の通学区域(学区制)の在り方について」(答申素案)(案)について

- (2) 今後のスケジュールについて

〔決定事項〕

- 「県立高等学校の通学区域(学区制)の在り方について」(答申素案)(案)を決定し、入学者選抜審議会に報告することとした。

通学区域（学区制）見直しの基本方向について

1 基本方向

(1) 3%枠の拡大

(基本方向)

現在の通学区域については、3%枠を拡大することにより、生徒の自由な学校選択の機会を保障することが望ましい。

(選択理由)

- ・3%枠の活用の現状を踏まえ、その課題（一部充足校に対する対応、活用のしにくさ等）の改善を図る必要があること。
- ・本県の置かれている社会経済的環境等を考慮すると、特定の地区・高校への集中や高校間の序列化等の課題がなお懸念されることから、学区制については、これを維持することとし、学区外の高校への生徒の入学希望に対しては、3%枠の拡大により実質的対応を図ることが適当であると考えられること。
- ・現制度の緩やかな改正であり、生徒や保護者にとって比較的理解しやすいこと。

(2) 通学区域の撤廃①（経過措置等を設けず早期に撤廃するケース）

(基本方向)

現在の通学区域については、撤廃することが望ましい。

(選択理由)

- ・生徒の自由な学校選択の機会の保障に最大限配慮した措置であること。
- ・他の地区から多様な生徒を受け入れることによる高校内部の活性化や、学校間での「魅力ある学校づくりの競い合い」による高校全体の活性化が最も期待される措置であること。
- ・居住地区による学校の選択機会の差を解消するためには、3%枠の拡大より通学区域の撤廃が望ましいこと。
- ・撤廃により通学区域に係る他の調整措置も不要となり、生徒、保護者にとって、より分かりやすい入試制度となること。

※他県の事例

撤廃済み 9県（和歌山、埼玉、福井、青森、秋田、石川、茨城、滋賀、奈良）

撤廃予定 4県（群馬（H19）、山梨（H19）、宮崎（H20）、静岡）

(3) 通学区域の撤廃②（経過措置を設けるケース）

（基本方向）

現在の通学区域については、撤廃することが望ましい。

ただし、制度の円滑な実施のため、3%枠の拡大を図るなど、数年間の経過措置を設けることが望ましい。

（選択理由）

- ・生徒の自由な学校選択の機会の保障に最大限配慮した措置であること。
- ・他の地区から多様な生徒を受け入れることによる高校内部の活性化や、学校間での「魅力ある学校づくりの競い合い」による高校全体の活性化が最も期待される措置であること。
- ・居住地区による学校の選択機会の差を解消するためには、3%枠の拡大より通学区域の撤廃が望ましいこと。
- ・撤廃により通学区域に係る他の調整措置も不要となり、生徒、保護者にとって、より分かりやすい入試制度となること。
- ・3%枠の拡大を数年間、経過措置として実施する間に、将来的な通学区域の撤廃に向けて経験の蓄積と準備が進み、円滑な制度移行が図られること。
具体的には、中学校においては進路指導の体制整備、高校においては学校の情報発信の更なる強化が図られるなど、生徒の適切な進路選択を支援する環境整備が進み、生徒、保護者にとっても制度理解や円滑な受検準備が可能となる。

※他県の事例…広島県（H13年度にH18年度での学区撤廃を決定。経過措置としてH15年度に15学区→6学区、他学区受入枠を5%→30%に拡大）
大分県（H16年度にH20年度での学区撤廃を決定。経過措置としてH18年度に12学区→6学区、他学区受入枠を3%→10%に拡大）

(4) 通学区域の撤廃③（当面、3%枠の拡大→検討→撤廃するケース）

（基本方向）

現在の通学区域については、将来的に撤廃することが望ましい。

ただし、本県の置かれている社会経済環境等を踏まえ、当面、3%枠の拡大を図るなどして、生徒の自由な学校選択の機会の保障に配慮することが適当であると考えられる。

（選択理由）

- ・居住地区による学校の選択機会の格差を解消するためには、3%枠の拡大ではなく、通学区域の撤廃が望ましいこと。
- ・しかしながら、本県の置かれている社会経済的環境を考慮すると、特定の地区・高校への集中や高校間の序列化等の課題がなお懸念されることから、学区外の高校への生徒の入学希望に対しては、3%枠の拡大により実質的対応を図ることが適当であること。
- ・3%枠拡大の影響を把握した上で、撤廃についての検討が可能となること。

※他県の事例…東京都（H13：隣接学区枠20%→他学区受入枠を各高校で30%、40%、50%の中から裁量選択→（検討）→H15撤廃）
神奈川県（H13：他学区受入枠を8%から25%へ→（検討）→H17撤廃）

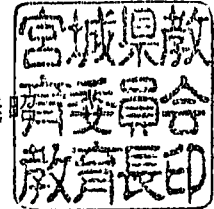
今後のスケジュールについて（平成18年度）

	学区制検討小委員会	高等学校入学者選抜審議会	備考
7月	第11回（答申素案（案）検討）	審議会（答申素案（案）検討）	
8月		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">パブリックコメント（意見募集）</div>	
9月	第12回（答申原案検討①）		
10月	第13回（答申原案検討②）	審議会（答申）	
11月		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">パブリックコメント（結果の公表）</div>	

高 第 1 5 4 号
平成18年7月13日

高等学校入学者選抜審議会
委員長 西林 克彦 殿

宮城県教育委員会
教育長 佐々木 義



宮城県立高等学校入学者選抜について（諮問）

このことについて、高等学校入学者選抜審議会条例第1条の規定により、下記の事項について諮問します。

記

- 1 平成20年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（別紙）
- 2 平成20年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（別紙）

(別紙)

平成20年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

平成20年度宮城県立高等学校入学者選抜に係る推薦入試面接等実施日、連携型中高一貫教育に関する入試(以下「連携型入試」という。)実施日、推薦入試合格発表日、連携型入試合格発表日、一般入試学力検査日及びその合格発表日については、下記のとおりとする。

記

推薦入試面接等実施日 連携型入試実施日	平成20年1月31日(木)
推薦入試合格発表日 連携型入試合格発表日	平成20年2月 7日(木)
一般入試学力検査日	平成20年3月 6日(木)
一般入試合格発表日	平成20年3月12日(水)

(別紙)

平成20年度宮城県立高等学校入学者選抜方針

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

1 基本原則

- (1) 各高等学校長は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあつては調査書等作成のための委員会を、高等学校にあつては選抜のための委員会を設置するものとする。
- (3) 県外、海外及びやむを得ない理由による地区外からの出願承認に当たっては、高等学校長は、公正、適正な審査を行うものとする。また、海外帰国者等の選抜については、弾力的に対応するものとする。

2 推薦入試

高等学校長は、学校・学科の特色に応じて、推薦入試を実施することができる。この場合、推薦書を基に、調査書のみ審査、あるいは調査書に、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文等の結果を合わせた審査を行うことができる。

3 一般入試

- (1) すべての高等学校は一般入試を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。この場合、次のア～ウを実施して、その結果を選抜の資料に加えることができる。

ア 面接

イ 実技（体育及び美術に関する学科の場合）

ウ 各教科の配点の比重を変える傾斜配点

また、必要に応じその他の資料を加えることができる。

- (2) 学力検査

ア 実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。

イ 実施時間は、各教科それぞれ50分とする。

ウ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

4 第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみ審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

5 連携型中高一貫教育に関する入試

当該高等学校長は、選抜に当たって、調査書及び面接の結果等に基づいて総合的に審査する。

(別紙)



平成19年度宮城県立高等学校入学者選抜方針

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

1 基本原則

- (1) 各高等学校長は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあつては調査書等作成のための委員会を、高等学校にあつては選抜のための委員会を設置するものとする。
- (3) 県外、海外及びやむを得ない理由による地区外からの出願承認に当たっては、高等学校長は、公正、適正な審査を行うものとする。また、海外帰国者等の選抜については、弾力的に対応するものとする。

2 推薦入試

高等学校長は、学校・学科の特色に応じて、推薦入試を実施することができる。この場合、推薦書を基に、調査書のみの審査、あるいは調査書に、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文等の結果を合わせた審査を行うことができる。

3 一般入試

- (1) すべての高等学校は一般入試を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。この場合、次のア～ウを実施して、その結果を選抜の資料に加えることができる。

ア 面接

イ 実技（体育及び美術に関する学科の場合）

ウ 各教科の配点の比重を変える傾斜配点

また、必要に応じその他の資料を加えることができる。

- (2) 学力検査

ア 実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。

イ 実施時間は、各教科それぞれ50分とする。

ウ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

4 第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみの審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

5 連携型中高一貫教育に関する入試

当該高等学校長は、選抜に当たって、調査書及び面接の結果等に基づいて総合的に審査するものとする。

(平成17年12月20日)